

平成26年度全国学力・学習状況調査結果(概要)について

学力の状況(函館市の状況)

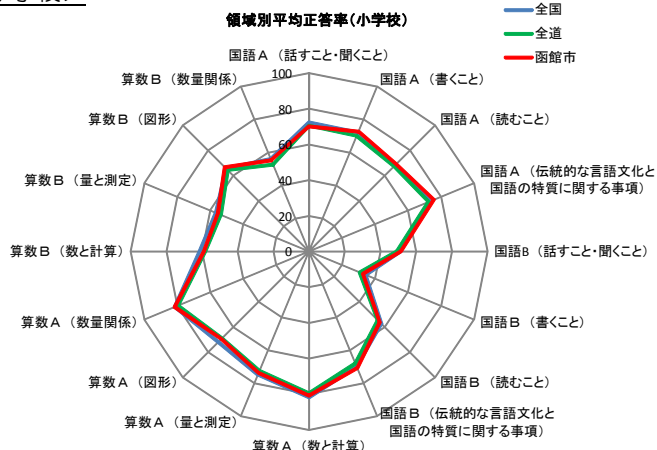
「全国と同程度」

○ 小・中学校とも、全科目の平均正答率において、全国と同程度(−1.6~+1.4ポイントの範囲内)であった。(平均正答問題数で見た場合−0.43問~+0.12問の範囲内の差)

「A問題：高，B問題：低」

○ 国語，算数・数学とも，A問題の正答率は比較的高く，B問題の正答率は比較的低い。

<小学校>



<他領域との比較から>

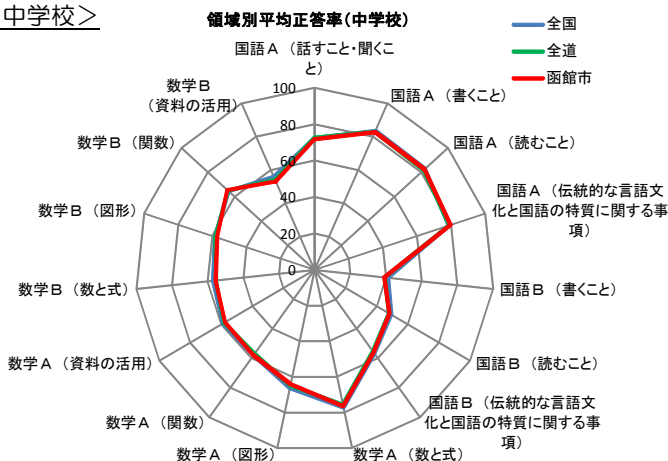
【小学校】

- ・国語Aの各領域は高い。
- ・国語Bの「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」が低い。
- ・算数Aの各領域は高い。
- ・算数Bの「量と測定」「数量関係」が低い。

【平均正答率】

	国語A	国語B	算数A	算数B
函館市	74.3	54.8	77.1	56.6
全国	72.9	55.5	78.1	58.2

<中学校>



<他領域との比較から>

【中学校】

- ・国語Aの各領域は高い。
- ・国語Bの各領域は低い。とりわけ、「書くこと」「読むこと」が低い。
- ・数学Bの「数と式」「図形」「資料の活用」が低い。

【平均正答率】

	国語A	国語B	数学A	数学B
函館市	79.8	50.3	66.2	59.1
全国	79.4	51.0	67.4	59.8

<参考>

調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析して，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る。
- ・教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

対象学年

- ・小学校第6学年，中学校第3学年

調査の内容

- ・教科(国語，算数・数学)
- (A問題)：主として「知識」に関する問題
- (B問題)：主として「活用」に関する問題
- ・質問紙
 - *児童生徒に対する調査
 - *学校に対する調査

生活習慣や学習環境等の状況（函館市の状況）

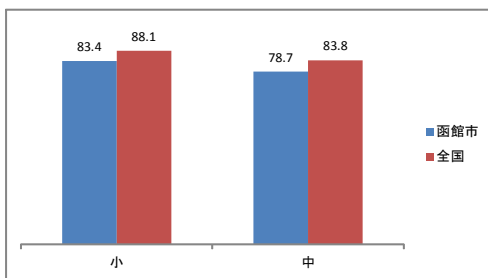
「朝食」「テレビ」「ゲーム」などに関して、全国を下回る

- 全国との比較において、「朝食を毎日食べる」割合が低く、「テレビ等の視聴時間」や「ゲームをする時間が長い」割合が高い。

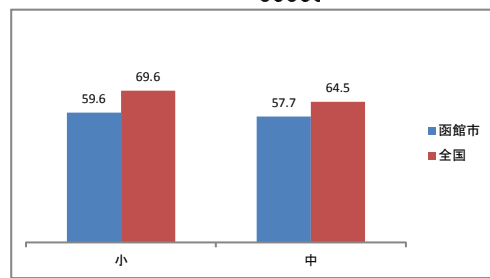
「勉強は好き」だが、家庭学習の時間は短い

- 国語、算数・数学とも、全国との比較において、「勉強は好き」の割合が高いが、「家庭学習の時間」に関する項目では割合が低い。

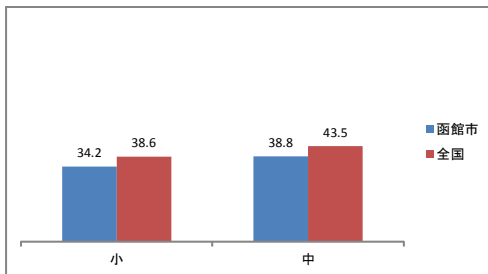
Q 「朝食を毎日食べていますか。」



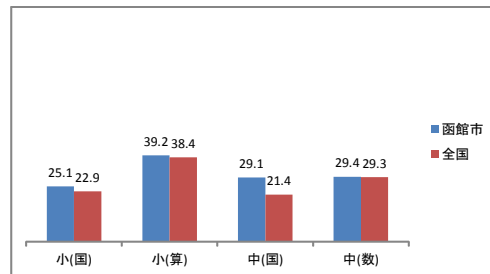
Q 「普段1日当たりのテレビゲームの時間が2時間未満である。」



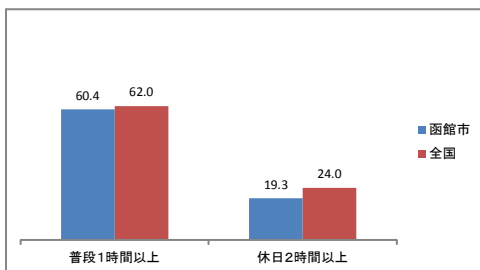
Q 「普段1日のテレビやビデオ・DVDの視聴時間が2時間未満である。」



Q 「国語（算数・数学）の勉強は好きですか。」



Q 「普段は1日に1時間以上、休日は2時間以上勉強をしていますか。」
（小学生のみ）



Q 「普段は1日に2時間以上、休日は3時間以上勉強していますか。」
（中学生のみ）

